

2004年
(平成16年)
6月5日 発行

小宮山たけし後援会 機関紙

連絡先 八丈島八丈町三根 1618 TEL 04996-2-1600

メール takeshi-kai@kmym.com

ホームページ <http://www.kmym.com/takeshi/>

八丈を変えるニュース

第6号



浮き魚礁は大ヒット

「浮き魚礁」は早くも抜群の集魚効果を実証している

昨年春、八丈島近海（小島の西海域）に町が2基設置した「浮き魚礁」の効果が大きく、周辺に多くの魚が集まっていることが確認できました。

町議会の経済企業委員で、5月7日午前中に現場を視察しました。東京都水産試験場の新造船「たくなん」（清水寿生船長）のお世話になって午前6時40分に神湊港を出港、約40分で現場に到着すると、そこにはウミネコが群れ飛び、漁船数隻がカツオ漁の真っ最中でした。ところどころでカツオの跳ね上がる姿も目撃できます。確かにここは既に重要な漁場と化しています。

町はこの魚礁2基に約1600万円をつぎこみましたが、これが大ヒットしたと言えます。その効果が早くも現れたのです。時間がたてばたつほど、魚の量は増えるとのことで、これからますます楽しみです。八丈漁協は新たな魚礁の設置を計画しているようですが、これほど効果が明らかな事業には行政の支援も惜しむべきではないでしょう。

どうなってるの？ 最終処分場

昨秋、管理型最終処分場の建設地変更を求める住民が、3千名を超える署名を出しました。しかし、町や一部事務組合は計画を強行しようとしています。私は12月議会で、住宅地に流れる河川の上流に造る危険性を訴えましたが、その後、この問題はどうか進んでいるのでしょうか。

3月議会では山口英治議員が、地権者の約1億円もの土地保有税が不納欠損処理された問題を取り上げました。町はこれに対して何の問題もないと説明していますが、多くの住民が納得していません。地権者は、全住民の要請がなければこの土地を売らない、と述べました。反対署名に示された住民の大多数の反対の声をみれば、「全住民の要請」などほど遠いことは明らかです。さて、この事実を地権者は果たしてどう判断されるのでしょうか。6月中に一部事務組合の事業説明が予定されているはずですが、今は、とりあえず買収交渉のゆくえを見極めたいと思います。

ブロードバンド進行中

ついに八丈島にもブロードバンドがやってきました。3月19日からサービスが始まっているADSLは、既設の電話回線を利用できるため、たちまち多くのユーザーが利用し始めました。光の方は、ケーブル設置工事が必要なために予定より遅れているようですが、それでも夏前には申し込んでいる方々すべてに回線提供ができるのではないのでしょうか。

ところで、この新しい通信環境を活かして島おこしを進める動きも活発化しています。モバイルゾーンの拡大、島の産品を販売するショッピングモールの開設、そしてこうしたインターネットでの八丈島への入り



島内は今、光ケーブル工事の真っ最中

口として、ポータルサイト（玄関のページ）を作ろうとする取り組みなどめざましく動いています。町には、こうした急激な展開に取り残されないよう、民間と連携できる態勢づくりを主導して欲しいものです。

貯金減、借金増の新年度予算 (3月議会から)

第1回定例議会は3月9、24、25、26、29、そして30日の計6日を費やす、極めて長い会期で開かれ、各議員から活発な意見や質問が出されました。

提出された八丈町の新年度予算の総額は90億8千万円。昨年度より約2千900万円増となっています。しかしその内容は、国や都からの財政支出の大幅な削減の中で、基金（貯金）の取り崩しや町債（借金）発行に頼る厳しいものになりました。しかし町長の所信表明には、この財政危機の中で、町をどう再生するかという方針がなく、平板な事業説明に過ぎず、各議員から失望の声が相次ぎました。



3月9日の、平成16年度の町の政策に関する町長の所信表明を受けて、24日には、それに対する8名の議員による一般質問があり、質問のトップに立った私は、(1)町の政策決定はどのような手順で行われているか、(2)福祉政策が施設収容型からの脱却を求められている中で八丈町のビジョンは、の2点を、約50分かけて質問しました。

また、新年度の一般会計、特別会計の予算案は、これまでの町議会史上でも初めてという、4日にわたる長時間の審議の末に可決されました。

主な議会活動（2004年1月～5月）

- (1) 2月10日 全員協議会
- (2) 2月13日 経済企業委員協議会
- (3) 3月9日～30日 第1回定例会
- (4) 4月1日、8日、13日、19日、26日
榎立小・中之郷小統廃合特別委員会
- (5) 5月19日 議員研修会
(橋本五郎氏＝読売新聞編集委員講演)
- (6) 5月20、21日 宮崎、鹿児島視察
- (7) 5月26日 臨時議会・統廃合特別委員会

第1回定例会での一般質問と答弁（3月24日）

公平で透明性のある政策決定を

小宮山 町長が目指すという「住民が住みやすいと感じる町づくり」は、その前提として、いかに住民意思を把握し、偏りの無いように調整して政策決定につないでいくかが重要なはずである。しかし最終処分場の建設や、学校統合問題などの経過を見ると、現実には住民意思を政策決定につなげていく機能が、今の町のシステムに確立されているとは言い難い。財政基盤が縮小する中で、地方分権時代に住民意思に基づいた町政をどのように築いていくのが重要になっている。

町の政策決定の手順は？

小宮山 施政方針で「委員会・審議会の統合・整理」を計画していると述べているが、これまでの各委員会・審議会の機能についてどう評価しているか。そしてどこに問題があり、それをどう改革するのか。

総務課長 事業の終了するもの、統合できるもの、また法律改正によって廃止になるもの等を検討し、56の委員会、審議会810名の構成組織を12団体225名の減で、16年4月1日から44団体585名に統合編成する。委員の報酬等も、1日単位同額であったものを、会議時間などを考慮し、報酬単価を1万1,800円、8,000円の2段階に改定する。

小宮山 「情報化社会への対応」として、住民意思に基づく政策決定のためにも、新たな情報環境の有効活用を進めなくてはならない。その中で、どのように情報公開を進め、意見集約のためのシステムを作っていくのか。あわせて、個人情報保護等のセキュリティ対策はどうなっているかも明らかにされたい。

総務課長 情報公開は、現在「広報八丈」の全家庭への提供に努めている。意見集約は、広聴はがきにより住民の方々からの意見をいただいている。また、情報化社会への対応のため、IT推進担当の主幹を配置し、電子情報係を新設して、情報化計画を作成する。その中で、情報公開意見集約システムを検討をして、住民に身近な電子行政も目指していきたい。

セキュリティ対策は、個人情報保護条例を後日上程し、電子行政の関係では、オンライン結合による個人情報の提供制限、相手方に対しても個人情報保護のための規定も設けている。また、情報漏洩等に対する安全措置は、

電子情報について八丈町内部でも、情報セキュリティ対策基準等を設けて対応していく。

八丈町の福祉政策へのビジョンは？

小宮山 特別養護老人ホーム増床後も、多くの入所希望者が待機している状況は解消されていない。高齢者福祉も障害者福祉も、施設収容型から、地域支援型へと移行する時代にあって、八丈町の将来へ向けての福祉施策の方向を示せ。高齢者が元気で日々を過ごし、人としての尊厳を重んじられる介護をどのように実現するのか。高齢者のためのグループホーム建設や在宅介護の支援を進める考えはないか。

健康課長 グループホーム建設は、高齢者実態調査を16年度に実施し、中長期的な課題として介護保険運営協議会で検討していきたい。在宅介護は、本年より在宅支援センターで家族介護教室等を実施し、介護予防についての支援を行っていく。昨年から実施している介護用品の支給、介護慰労金の支給等も継続して行う。



家庭的介護を目指す小規模施設が増えている

小宮山 ボランティアによる奉仕活動によってようやく成り立っている八丈町の障害者福祉の現場は財政基盤が極めて厳しい。障害を持っていても「地域の一員として安心して生活できる社会づくり」を目指し、よりいっそうの支援策を求める。

健康課長 障害福祉団体への16年度の補助金は4団体に4,118万9,000円を補助する予定になっている。ちょんこめ作業所2,266万1,000円、通所者1人当たり133万2,000円が支出予定であり、この中に人件費分1,790万円が含まれている。フェニックス作業所は1,804万6,000円で、通所者1人当たり69万4,000円、人件費分が1,600万円となる。また、昨年より支援費制度が始まったが、この制度は障害者の方が自分に合ったサービスを選択して、地域で自立した生活ができるように支援を行うもので、この支援費の15年度の支出予定額総額として、今現在は2,440万円を予定している。

一般質問詳細をホームページで閲覧できます。
印刷希望があればお申しつけ下さい。

現代の踏み絵か？ 学校

今、学齢期のお子さんをお持ちの方、心配事はなんですか？やっぱり学力のことですか。学校統合の問題もありますよね。でももう一つ、とっても深刻な問題が学校で進行しているんです。それは「日の丸・君が代」の問題なんです。

東京都教育委員会は昨秋、都立高校の入学式や卒業式での「日の丸・君が代」に関して、校長の職務命令に従わない教職員は処分するという通達を出しました。そして今年の都立高の卒業式。処分覚悟で命令を拒否した教職員が196名（八丈高校4名）もいました。その、すさまじいという

か、おそろしいというか、問題の卒業式の現場とはこんな感じだそうです。



八丈高校では起立拒否者が4名も

式には都の職員がかならず出席し、職務命令が「きちんと」実施されているかどうか見張ります。この命令を強制するのは教頭の役目。お気の毒に、一番きつい役どころですね。きちんと日の丸を向いて起立しているか、ちゃんと歌っているか、チェック、チェック！違反者を見

つけると「立ちなさい」「歌いなさい」と詰めより、それでも立たなければこう言います。「先生、座っていますね。現認します。〇時〇分」「起立して下さい。立たないと職務命令違反になりますが、よろしいですね！」

卒業生の九割が歌わず、立たなかった学校（都立板橋高校）もありました。そこには、「日の丸・君が代」強制の急先鋒である某都議も出席していたそうです。滑稽かつ感動的、しかもこの問題の本質を示しているその日の様子をご紹介します。

まず、式直前の出来事。来賓の元教員が、卒業生が入場する前に、卒業式の危機を訴えていた雑誌の記事コピーを保護者席に回覧しましたが、すぐに退席させられました。しばらくたって開式が宣言され、司会の教員が

現場の「日の丸・君が代」

小宮山 万里子

「国歌斉唱」と大声を発すると、生徒たちはサアッと着席してしまいました。驚いた校長と教頭、そして来賓の某都議までが「起立しなさい」と怒鳴りまくる、と、「思想、信条の自由はどうなるんだ」と一生徒の声がありました。すると教頭は「信念を持って座っているもの以外は立ちなさい」と叫ぶ。しかし約270人の卒業生は座ったままでした…。

立たなかった高校生のすべてが、「日の丸・君が代」を拒否する思想を持っていたはずはありません。彼らは、自分たちの考えを縛り、押さえつけようとするに対してNO！を意思表示したのであり、極めて高校生らしい健康な感覚です。しかし教頭は、はからずも、座っていること＝思想・信念を持っていること＝処分対象、と本音を暴露したのです。どういう思想・信念を持つ人を処罰するのかといえ、お上の言うことに従わない



応援の時の日の丸とは全然ちがう！

人であり、「日の丸・君が代」はその究極の手段として使われているのです。

「処分」をふりかざし、校長と教頭を手なずけ、教職員を脅す。板挟みにあった校長先生の自殺という事態も起こりました。しかもこうした式のあり方は、都立高校のみならず公立の小中学校にまで及ぶことは必至であり、教育全般を都や国が牛耳っていかこうとする強烈な意志を感じます。私たち日本人が、テレビのワ

イドショーで、北朝鮮の金正日礼賛の教育を嘲笑しているうちに、日本でも同じようなことが進んでいたわけです。文部科学省のでたらめな指導に振り回され、厳しい思想統制を受けている教職員、過去の日本の汚点を覆い隠そうとする教科書の登場、大学までも思いのままにしようとする石原都知事の都立大学構想、一方で進む少数エリート選別教育。

歌うのか、立たないのか、問われているのは先生方だけではありません。こんな通達を出させているのは誰なのか、それを選んだのは誰なのか、めぐりめぐって突きつけられた石原都政の現実を、今、これからただし、流れを変えていくこと、それが私の、出来ればあなたの、歌わない、立たない意志表示、です。

檜小・中小統合の建設地はどこに

檜立小と中之郷小の統合問題で、これまで町長は町議会に三原中の敷地内に建設する案を示し、議会もこれを認める方向に進んでいました。しかし、住民代表による協議会で①中学校とは併設しない②場所は檜立と中之郷の中間地、の2点を満たすために「三原中前に建設してほしい」との要望が出されました。そして町長は、三原中案をくつがえして、これを受け入れる姿勢を示したため、議会としてもこの問題を再検討することが必要となり、私を含む10名の議員によって特別委員会を設置して、数度にわたり審議を重ねてきました。

委員会（伊勢崎和鶴右衛委員長）は三原中前の候補地を視察した上で、地形面、財源面等の諸条件に関する検討をしてきましたが、傾斜の厳しいこの土地に建設することは困難であるとの



特別委員会で三原中前候補地を視察

認識が大勢を占めて来ています。そこで委員会として、住民協議会の意向をじかに伺う機会を設けることになりました。協議会は、三原中内に併設する場合の問題点として①敷地が狭く十分な校庭が確保できない②年齢の離れた子どもが一緒だと危険性が高い、などを指摘しています。そこで、その指摘を踏まえながら、総合的に三原中併設案と三原中前案を比較検討することが課題になっています。

学校建設は教育的観点第一にして進めるべきことは言うまでもありませんが、学校の果たす地域振興の役割も無視することはできません。坂上地域の発展と八丈町全体の未来像を見据えて、間違いのない建設計画をつくらなくてはならないと思います。

「八丈を変えるニュース」について

- このニュースは「小宮山たけし後援会」の機関誌（不定期刊）です。
- 後援会の会員だけでなく、ご希望の方にはどなたにもお渡します。
- お読みいただける方をご紹介下さればお届けします。
- 講読は無料ですが、感想やご意見をお寄せいただければ幸いです。